マップの絵とき

1 千駄ヶ崎砲台跡
東京湾湾口の千駄ヶ崎は、絶壁が海に接した自然の要害で、外国船の出没する幕末になると、沿岸防備の必要に迫られ幕府は、弘化四年（西暦1847年）、大正期には観測所となり、要塞砲が据えられ、一層防備が固められて、軍人以外は立ち入ることのできない所となった。一度も敵の大砲を見ることなく終戦を迎えるに至った。弘化四年の銘記のあったお台場への切通しの片側のみ山腹に残っている。

2 千駄稲荷
昭和十五年頃までは、毎年二月の初午になると、東地区の子供達は、いくりっこの太鼓をたたいて、高張提灯を先頭に、千駄岡田別荘の北東角にあった稲荷神社（現国立久里浜病院内）にあった千駄稲荷のおまつりをしたものである。神社は高台にあり、夜の参詣者が現れ、武明の忠誠を賞賛する御告げがあった。翌日覚めた武明は千駄一帯を領地とし、その後、数百年にわたり、代々の領主に分け入ったところ、神の五本木に白いものが見えたので近寄ってみると、それは白鳳の尾であった。これは瑞兆と持ち帰って神社が「かんのんどう」にあった千駄稲荷であり、後に一帯が要塞となるに及んで、区域内のこの地に移されたものと聞く。

3 【民話】 千駄観音
「かんのんどう」と呼ばれている千駄の鼻っ先の里に、日頃から行いがよろしく、観音様を深く信仰している漁師がいた。ある日、舟は木の葉のように揺れ流されて浜に戻れなくなってしまった。心配した漁師の妻が、夫の安否を観音様に一心に祈ったところ、千駄から一条の光が漁師の舟に届き、その光の中に一列の千駄観音様の姿が浮かび上がった。日頃の信仰心から命を助けて遣わされたものであると、今日はそこからともなく「神の御声」が聞こえてきた。「この光に導かれて浜に帰りなさい。」観音様の美しい声が聞こえてきた。お陰で命拾いをした漁師は、その後も一層信仰を厚くして、この観音様を見ることなく終戦を迎えるまでよりますます行いを慎み、幸福に生きたという。

4 千駄横穴古墳
横穴は古墳時代の墓室の一種で、ローム層等の掘り易い地質の山腹に穴を掘りくぼめて墓室としたものである。死者を納める主室（玄室）と、その前方にある通路（羨道）とからなる。玄室の平面形で、明治四十二年から大正期にかけて横浜の早野硅砂製造会社が、肥料と製鉄材料として、ここで硅砂を採掘していた。地域の農家も自宅に持ち帰り、米搗きに使っていたが、やがて人体に有害とわかり、しだいに廃れるようになった。

5 鏡田横穴古墳
千駄横穴と同様であるが、内部構造がドーム型で千駄横穴に比して荒く、古墳時代後期のものと推定されている。

6 市福祉援護センター（かがみ田苑）
市制八十周年記念事業の一環として昭和六十二年四月に知的障害者の授産、更生施設として開設された。

7 横須賀第一・第二老人ホーム
神奈川県が建設し、同福祉事業団が運営に当たり百五十人のお年寄りがふれあいの日々を送っている。昭和四十六年開設、平成十年改築。

8 源氏ボタル
ホタル類中の最大種で、幼虫は清流に生息し、カワニナ等の巻貝を食べる。幼虫が発光するが光は緑色いろ成虫は五月下旬から六月中旬にかけて出現する。汚染、農薬使用等で絶滅寸前のホタルがここには生きていた。大切にしよう。

9 牛かくし谷戸
夢を破られた野比住民がいはやく耳にしたニュースがこれである。「それは大変だ、とんだ先生を連れてこの谷あいに隠してしまった」という。

10 国立療養所久里浜病院
昭和十七年海軍病院として開設され、主として海軍の結核患者の治療機関であったが、昭和二十二年厚生省管轄として標記に改称された。結核、精神病中心に診療を続けていたが、昭和三十八年以来結核患者を対象とした特殊医療機関として注目されてきた。現在はさらに多くの診療科目が設けられている。

11 硅砂層
千駄の海岸にまっ白い砂の出る所が一ヵ所あった。これが硅砂層で、明治四十二年から大正期にかけて横浜の早野硅砂製造会社が、肥料と製鉄材料として、ここで硅砂を採掘していた。地域の農家も自宅に持ち帰り、米搗きに使っていたが、やがて人体に有害とわかり、しだいに廃れるようになった。

12 正海軍馴音所
大正十二年、東京湾に侵入する敵潜水艦をいち早くキャッチしようと、ここから沖合二千五百メートルまで電線を敷設し、その先端に聴音機を取り付けて出入りする艦船のエンジン音を日夜レシーバーで聞いていた。

13 国立特殊教育総合研究所
心身障害児の総合研究、関係者の研修を目的として、昭和四十六年文部省により開設され、隣接の国立久里浜養護学校と共に、専門的研究、研修が続けられている。

14 野比中学校
地域開発、団地造成による北上浦中学の生徒増に伴い、昭和五十二年四月開校（当月移転）された。当初は野比、粟田、ハイランドを統合する学区としていた。

15 野比東小学校
浄土真宗本願寺派善福寺は、通称「三百の寺」で知られる。本尊阿弥陀如来、草創は行基菩薩、初めは高野山にあったが、曲折を経て約四百六十年前この地に移った。もとは台宗であったが、真宗に改宗を余儀なくされた。かつて寺が落雷によって火災を起こした時、また江戸に向かって航行中の材木船がその火を目で確認し、安全に航行することができたお礼に、その材木商が新築用材を寄進して消失した後、二段下の現在地に復興された。

16 最光寺
浄土真宗本願寺派大谷派法龍山大積院最光寺、通称「三百の寺」で知られる。本尊阿弥陀如来、草創は行基菩薩、初めは高野山にあったが、曲折を経て約四百六十年前この地に移った。もとは台宗であったが、真宗に改宗を余儀なくされた。かつて寺が落雷によって火災を起こした時、また江戸に向かって航行中の材木船がその火を目で確認し、安全に航行することができたお礼に、その材木商が新築用材を寄進して消失した後、二段下の現在地に復興された。しかし、昭和十五年再び大火災によって消失した。

17 白髭神社
源頼朝里帰り（創建は不詳でするが、社伝によれば「文永八年亥辛巳、同志を募り社壇を富塚山頂麓に勧請す」とあるので、およそ三百七十年程前に東山の現在地に移ったものらしい。明治五年一社神社統合により、中村浜の諏訪神社・千駄の稲荷社・船神社・中村岡の天神社・花輪の水神社・大作の子之神社の各社がここに合祀された。

18 おんべ焼
急速に都市開発のすすむ今日、いわゆる自然林はほとんど見られなくなってしまったが、この裏山は風が吹きつける厳しい条件下でオーミール前後の常緑広葉樹が密生した貴重な森で、神奈川県指定天然記念物として保護されている。

白髭神社の社叢林
供達の触れ回る声である。「左義長とも言われ、正月の門松や注連縄を予定の場所に集めて組み上げ、七草の早朝に焼く。

18 おんべ焼
デーセッテ、セーデーセッテ、セーオンベモスマッシンジモベンバモトビオキロ、デネモナガニンバ」
おんべ焼の朝、子

19 【民俗芸能】 虎踊り
野比中学校に伝える虎踊り。由来は詳らかでないが、虎の加護により、悪疫の流行、火災等の災害を防ぐ意味合いから元禄以降松明入庵門の獣曲（国性爺合戦）の唐内の出る頃から広まったものと思われ、伊豆方面からの伝説もある。二人だちの踊りである虎の踊役は和田内の一人、大唐人、踊り手の唐人踊り約十人出演する。虎舌はしっちい・笛・太鼓・鉦の囃方はその下に入れて「ウーラ」とよんで、アとうの間に掛け声がある。もとは虎台の上で演じられ、笛・太鼓・鉦の囃方はその下に入れて「ウーラ」とよんで、アとうの間に掛け声がある。もとは虎台の上で演じられ、笛・太鼓・鉦の囃方はその下に入れて「ウーラ」とよんで、アとうの間に掛け声がある。もとは虎台の上で演じられ、笛・太鼓・鉦の囃方はその下に入れて「ウーラ」とよんで、アとうの間に掛け声がある。

20 野比老人福祉センター
昭和四十一年開設、一日約五十人、千人のお年寄りの憩いの場として広く利用され、喜ばれている。

21 旧野比学校跡
浄土真宗本願寺派善福寺は、本尊阿弥陀如来、開基鎮仏上人によって開山された。本尊阿弥陀如来、開基鎮仏上人、浄土真宗本願寺派善福寺は、本尊阿弥陀如来、開基鎮仏上人によって開山された。

22 武山不動尊道標
この街道の標示を変わる、百四十年前からじっと見つめているのが、武山不動尊前不動かとわれるこの石造りの道標である。台座正面に「右らがん、かもめ」「左ながやた、みさき」とあり、台座一部には「此方けが〜まみち」と刻まれ、行会交う旅人へのあたかも道しるべとして建っている。

23 開田氏藤原玄了の墓
もと野比大善地跡に残るこの野比開田碑は、その碑文から、元禄一年頃の地、常盤開田した恩人、伊勢守生れの漢学・医学に優れた藤原玄了氏氏の墓があり、没後里人たちの手によって建てられ、墓に参り、さらに子孫のために改めて碑文を刻み直したことが伺える。

24 最宝寺
浄土真宗本願寺派高徳院五明山最宝寺と称するが、通称五明山と呼ばれ、四月八日は甘茶がふるまわれるお寺として親しまれている。本尊阿弥陀如来、開基は源頼朝の甥頼光上人、建久八年鎌倉幕府の祈願所として創建された。本堂左手の観音堂には、千駄観音が安置されていて、安産の守り本尊として知られている。また、徳川時代には一万石大名の格式をもつ寺として扱われていたといわれる名刹である。

25 最宝寺
浄土真宗本願寺派光照山最宝寺。本尊阿弥陀如来、開基鎮林上人はもと禁中守護に当たった北面の武士で相模之介藤原三晴と名のっていたが、天台宗を修めた後英功と称し、後に親鸞に帰依して真宗に改めたほどの地にあったが、鎌倉からの最宝寺の移転に際して現在地に建立されたといわれる。

26 称名寺
浄土真宗本願寺派善福寺は、本尊阿弥陀如来、開基鎮仏上人によって開山された。真永年間に「総結城祭名寺の息仏上人」かって真言宗であったが、真永年間に「総結城祭名寺の息仏上人」かって真言宗であったが、後に親鸞上人入滅後しばらくの間、本堂左手の観音堂には、千駄観音が安置されていて、安産の守り本尊として知られている。また、徳川時代には一万石大名の格式をもつ寺として扱われていたといわれる名刹である。

27 普里地蔵尊
普里、栗田街道を通行する旅人の道中安全の衛頓・頭痛等に霊験あらたとして信仰されていたもの。もとは栗田小学校辺りにあった松の大木下に祀られていたのを、地元地域住民の参加により現在地に移されたもの。諸願成就のお社壇を備えた堂宇である。もと道貴族信仰であったが、次第に庶民に広がり街の辻に多く見られるようになった。

28 リサーチパーク（ＹＲＰ）
二十一世紀の豊かでゆとりある高度情報通信社会に向け、産・学・官が連携し、世界的な情報通信技術の研究開発を目的として造成された国際的拠点。造成は自然環境との調和を十分配慮して進められた。

29 野比小学校
北下浦小学校の児童数増に伴い、昭和五十七年月野比地域の小学生を対象として開校された。

30 南消防署野比出張所
市中心部から離れた北下浦地域の災害に対応するため、昭和五十三年四月開設された。

31 長岡地蔵尊
地蔵・観現・衆生・修羅界に堕ちて苦しむに苦を救ってくれるありとして信仰されていたもの。もとは栗田小学校辺りにあった松の大木下に祀られていたのを、地元地域住民の参加により現在地に移されたもの。諸願成就のお社壇を備えた堂宇である。もと道貴族信仰であったが、次第に庶民に広がり街の辻に多く見られるようになった。

32 【民話】 なおけの里
「昔、ある日、磯で大蛸を見つけて喜んだ漁師は、早速捕まえようとしたが、桶に入れても入れても足を一本切り落ったところ、桶に一杯あった。次の日も又の日も蛸はそっと磯に行き、桶一杯の収穫を切り取って持ち帰った。いくいよ八本目の足を切ろうとしたところ、怒った蛸はすっとんで出て海の底深く引きずり込んでしまった。ふたたび強気の漁師のお話で、今もこの地をなおけ（七桶）の里と呼んでいる。なお、菓山方面にも類話が伝わる。

33 若山牧水夫婦歌碑
若山牧水は本名繁、明治十九年生れ、父は宮崎県に生れ、父は県立農業、母は宮崎県に生れ、父は県立農業、母は名古屋に生れ、父は県立農業、母は名古屋に生れ、父は県立農業、母は名古屋